

一度受けてみませんか？胃がんのリスクを調べる

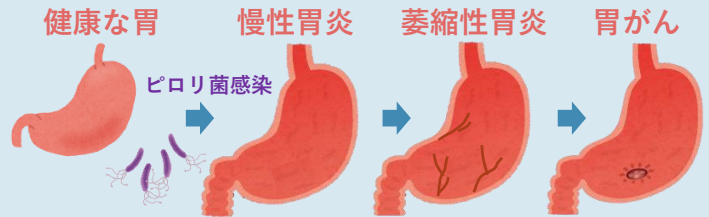
ピロリ抗体検査とペプシノゲン検査



↑↑↑
ホームページには
健康情報が
盛りだくさん！

◆胃がんはどうやってできる？

胃がんの原因のほとんどは、ヘリコバクター・ピロリが感染することによります。ピロリ菌は幼少期に感染し、一生持続感染します。ピロリ菌の感染が判明した方は、除菌治療を保険適用で受けることができますが、除菌後も胃がんのリスクはやや残るため、定期的な胃がん検診が勧められています。



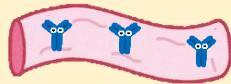
ピロリ菌に感染すると数週間～数か月後にほぼ100%胃炎が起こります。感染後約20年ほどかけて炎症が進み、多くは萎縮性胃炎に移行します。そして、萎縮性胃炎を放置すると胃がんのリスクが高まります。

◆ピロリ菌の感染を調べる検査があります

ピロリ菌に感染しているかどうかは、内視鏡を使わずとも調べることができます。当協会では、血液検査でわかる「ピロリ抗体検査」を実施しています。

《ピロリ抗体検査》

血管内のイメージ



👉：ピロリ菌に対する抗体

ピロリ菌に感染すると、血液中にピロリ菌に対する抗体が産生されます。

血液中の抗体価を測定することで、ピロリ菌の感染の有無がわかります。



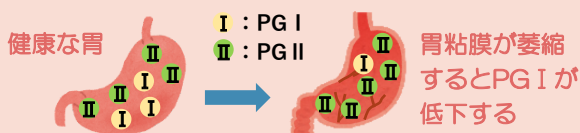
－ピロリ抗体検査の結果の見方－

抗体価	判定	当協会の判定	結果の解釈
2.9 U/ml以下	-	異常なし	現在ピロリ菌に感染している可能性は極めて低い
3.0-9.9 U/ml	±	要観察	過去の感染と思われるが、現在感染している可能性もあるため、他の検査方法で確認が必要
10.0 U/ml以上	+	要精検	現在感染している可能性が高いため、医療機関を受診する

ピロリ抗体検査を受けたことがない方は、一度調べてみることをおすすめします。

◆胃の萎縮の程度も血液検査で調べられます

ピロリ菌の感染によって萎縮性胃炎になると、胃で作られるペプシノゲン（PG）という物質の産生が減少します。PGは一部が血液中に入るため、血中の濃度を測定することで、胃粘膜の萎縮の程度を判定することができます。血液検査で調べられるため、身体への負担が少なく、安価に行うことができる検査です。



－ペプシノゲン検査の結果の見方－

測定値	当協会の判定	結果の解釈
PG I \geq 70.1 ng/ml または I / II 比 \geq 3.1	異常なし	胃粘膜の萎縮なし
PG I \leq 70.0 ng/ml かつ I / II 比 \leq 3.0	要精検	胃粘膜が萎縮している可能性が高いため、医療機関を受診する

ピロリ菌やペプシノゲン検査は胃がんを直接見つける検査ではないため、胃部X線検査や上部消化管内視鏡検査を定期的に受けることが胃がんの早期発見には大切です。

